

# 18. 愛知県てんかん治療医療連携協議会 2023 年度報告書

愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長

愛知医科大学精神科学 教授

兼本 浩祐

名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科 教授

名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター センター長 齋藤 竜太

本資料作成者 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 助教 山本 啓之

## まとめ

2018 年度に開始された愛知県てんかん地域診療連携体制整備事業は、名古屋大学医学部附属病院を拠点機関としながら複数のてんかん診療機関がコンソーシアム型の連携をはかっている。てんかんの知識啓発は Covid-19 による制限中に行ってきた講習会の現地+web のハイブリッド開催のノウハウを生かしながら多くの参加者を得ている。引き続き、てんかんの診療連携、啓発をはかっていく。

## 1. 概要

愛知県により 2018 年 11 月 30 日に名古屋大学医学部附属病院が拠点機関に指定された。愛知県にはてんかん診療を積極的に行っている医療機関が多くあり、単一の医療機関を拠点とするのは実情に合わないと考えられた。そのため、協議会には幅広く県内の医療機関の医師が参加し、円環状につながったコンソーシアム型の診療連携体制が構築された。(下図)。適宜委員を任命しさらなる診療連携を図っている。今年度はあらたにあいち小児保健医療総合センターの医師が登録され、より強固な診療連携体制となった。市民公開講座、講習会は COVID-19 による制限下の経験をいかし、ハイブリッド開催とすることで多くの参加者を得ている。

## 2. 事業

### 1) 協議会

2023 年 11 月 16 日に第 6 回愛知県てんかん治療医療連携協議会をハイブリッド会議形式で開催した。2022 年度の活動報告、2023 年度の活動予定などが確認された。

協議会の委員は以下の通りである。

会長 兼本浩祐 愛知医科大学精神科

### 1. 拠点機関

- 齊藤竜太 名古屋大学脳神経外科
- 勝野雅央 名古屋大学脳神経内科
- 夏目淳 名古屋大学小児科
- 稲田俊也 名古屋大学精神科・親と子どもの心療科
- 山本啓之 名古屋大学小児科 (コーディネーター)
- 伊藤祐史 名古屋大学小児科 (コーディネーター)
- 後藤紋香 名古屋大学精神保健福祉士 (コーディネーター)

### 2. てんかん治療を専門的に行っている医師

- 兼本浩祐 愛知医科大学精神科
- 福智寿彦 すずかけクリニック
- 東英樹 名古屋市立大学精神科
- 齋藤伸治 名古屋市立大学小児科
- 奥村彰久 愛知医科大学小児科
- 石原尚子 藤田医科大学小児科
- 前澤聡 名古屋医療センター脳神経外科
- 岡田久 名古屋医療センター脳神経内科
- 森川建基 森川クリニック
- 寶珠山稔 名古屋大学医学部保健学科
- 廣瀬雄一 藤田医科大学医学部脳神経外科学
- 三浦清邦 愛知県医療療育総合センター中央病院小児神経科





### 3) 啓発のための市民公開講座

#### ・市民公開講座

「学校生活とてんかん」

日程：2024年2月10日（土曜日）

時間：14:00-16:00

場所：公立陶生病院 ハイブリッド開催  
プログラム

座長 名古屋大学医学研究科小児科学 山本啓之先生

講演1 子どものけいれん・てんかんのキホン

愛知医科大学医学部小児科 奥村彰久先生

講演2 てんかんのある子の日常生活

聖隷浜松病院小児神経科 沼本真吾先生

講演3 てんかんの子どもの発作時の対応

埼玉県立小児医療センター神経科 菊池健二郎先生

参加者：87名（現地26名 web67名）

2023年度 愛知県てんかん治療医療連携協議会 てんかん市民公開講座  
『学校生活とてんかん』  
開催日時 2024年2月10日(土) 14:00-16:00  
開催会場 公立陶生病院 第1会議室(北棟5階)  
開催方法 現地および Web開催 (Zoomウェビナー)  
参加費無料 事前登録制  
定員150名(現地) 事前申し込み締め切り 2月5日(月)

14:00-14:05	開会のあいさつ	座長 名古屋大学医学研究科小児科 山本啓之
14:05-15:00	講演1 子どものけいれん・てんかんのキホン	愛知医科大学医学部小児科 奥村彰久
15:00-15:10	休憩	
15:10-15:35	講演2 てんかんのある子の日常生活	聖隷浜松病院 小児神経科 沼本真吾
15:35-16:00	講演3 てんかんの子どもの発作時の対応	埼玉県立小児医療センター 神経科 菊池健二郎
16:00~	閉会のあいさつ	

お申し込み方法 必須事項をご記入の上、①か②のいずれかの方法でお申し込み下さい。  
①Googleフォームによる事前登録制  
②メールにてお申し込み  
申し込みの受付 募集(2/5まで)、メール受付、お問い合せ、お申し込みの受付、お申し込みの受付  
運営事務局 愛知県てんかん治療医療連携協議会 名古屋大学医学研究科陶生病院てんかんセンター  
〒466-8550 名古屋市中区鶴舞1-5 TEL 052-744-2294

### 4) 拠点機関活動

脳神経外科、脳神経内科、精神科、小児科の医師、看護師、薬剤師、検査技師、精神保健福祉士、リハビリテーション部門などの多職種による症例検討会を毎月開催し、てんかん患者さんがより良い生活ができるよう治療方針のみならず、福祉サービスの利用など多方面での支援方法を検討している。また、症例検討会を通じて拠点機関内の医療者にむけての知識啓発を継続している。長時間脳波検査などのてんかんに関連する検査件数が増加している。

### 3. 成果と課題

本事業は都道府県単位で一つの拠点機関を指定することが前提とされている。しかし、実情として複数の医療機関が拠点としててんかん診療を行っている地域では単一の拠点機関を指定することが困難であることが考えられる。愛知県でも複数の医療機関がてんかん診療を積極的に行っており、それぞれの機関により得意としている分野は異なっている。そのため複数の医療機関がコンソーシアムとして拠点を形成することで有機的に連携をし相補的な拠点形成をすることが必要であると考えられた。そのため、協議会には幅広い医療機関から参加し、多施設が横に連携して県内の各地域の患者さんがバランス良くてんかん診療を受けられる体制を目指している。

てんかんは有病率が高く、生涯にわたって罹患しうる疾患である。また症状も千差万別であり、当然のことであるが拠点機関にすべてのてんかん患者を集約できるものではない。複数の医療機関が横に連携した診療体制を構築することを、県内の患者、家族、医療機関のスタッフに広報し、病状に応じた適切な診療を受けられるようにすることが必要である。またてんかんの初期診療から二次・三次診療を担う県内の医療機関について情報共有し、診療レベルの向上、診療ネットワークの形成、診療マップの提供をしていけるように活動を続けることが必要である。そのため市民公開講座、医療者のための講習会を開催し知識、認識の共有に努めてきた。

今年度は Covid-19 流行による制限もやや緩み現地での公開講座などを開催し交流をはかった。それに追加して Covid-19 流行による制限下で得たハイブリッド開催などのノウハウをいかし、現地に直接参加できない参加者はweb参加で参加が可能な開催形式とした。これにより、さらに多くの方への知識啓発ができたと考えている。

今後の課題としては、医療機関の広域的な偏在の問題がある。本事業は都道府県単位となっているが、実際の医療圏は都道府県を超えて連携されている。愛知県では県庁所在地である名古屋市に人口の重心があるが、名古屋市から鉄道で30分の圏内には人口30万人超の他県の都市が複数存在する。これらの県ではてんかん拠点が指定されておらず、愛知県および静岡県へ紹介されている現状がある。今後は県の単位を超えた連携も視野に入れていく必要があるであろう。これらは全国拠点との連携を通じて解決を模索していきたい。